

情報通信月間参加行事 実施報告書

行事ID	F013	行 事 名	防災情報通信セミナー			
行事形式	3.ICTセミナー	主催団体	東海総合通信局 東海地方非常通信協議会 東海情報通信懇談会			
開催日	令和5年6月30日(金)		開催場所	ワインクあいち(愛知県産業労働センター)		
行 事 参加者数	90名		Webサイト URL	https://www.soumu.go.jp/soutsu/tokai/kohosiryo/2023/0531.html		
行事実施概要・アピール等						
<p>本セミナーは、近年、被害が甚大化、広域化している大規模地震や大型台風が頻発していることから、災害現場における復旧対応の事例について紹介することで、地方公共団体及び防災関係機関の取組の参考としていただくことを目的として開催し、国や地方公共団体の防災関係者、電気通信事業者及び放送事業者など約90名の参加がありました。</p> <p>はじめに、日本放送協会放送文化研究所の村上研究主幹から、「災害情報を確実に届けるために～臨時災害放送局の役割と今後～」と題して、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震及び東日本大震災等の災害現場での取材を通じ、住民の生活や命を守るために情報の重要性を痛感されレジリエントICT研究センター、住民ニーズに対応したメディアとして設置する臨時災害放送局の有用性について紹介がありました。</p> <p>続いて、株式会社プロドローンの戸谷代表取締役社長から、「産業用ドローンのいまとこれから～革新と強靭のマリアージュ～」と題して、世界と日本のドローン産業の市場規模の推移、愛知県の「革新事業創造提案プラットフォーム」事業などにおけるドローンの果たす役割や社会実装に向けた技術開発の状況について紹介がありました。</p> <p>最後に、国立研究開発法人情報通信研究機構レジリエントICT研究センターの井上センター長から、「レジリエントな情報通信の研究開発と自治体での活用」と題して、大規模災害発生時においても、情報ネットワークの途絶を回避できる耐災害性を備えた地域情報通信基盤である「ナーブネット」の概要と既に導入している自治体の事例や実証試験の結果等について紹介がありました。</p>						

